

日本ケロッグ協賛  
第5回「子どもの日チャイルドライン」集計結果まとまる  
学校の友人関係の悩みに、女子小学生から電話多数

NPO法人チャイルドライン支援センター<sup>1</sup>主催、日本ケロッグ株式会社<sup>2</sup>が協賛する第5回「子どもの日チャイルドライン」が5月5日より実施され、この度、その結果がまとまりました。

チャイルドラインとは、18歳までの子どもなら誰でも匿名でかけられる、子どもの声を受けとめる電話です。第5回目となる今年は、子どもの日の5月5日から11日までの7日間、全国キャンペーンとして毎日7時間（14:00~21:00）、フリーダイヤルで電話を受け付けました。期間中のアクセス数は67,368件と、連日1万件前後のアクセス数を記録。また「受け手」<sup>3</sup>との通話件数は16,670件に上り、昨年に比べ2,000件ほど増加しました。

■ トップは女子小学生からの電話

男女・年齢別に見た場合、かけてきた子どもが最も多かったのは女子小学生でした(34%)。年齢が上がるごとに女子の割合は減少し、結果的に、高校生では、男子との通話が女子を大幅に上回りました。

■ 電話内容のナンバーワンは「学校の友人について」

電話内容<sup>4</sup>のトップは「学校生活(友人関係)」(29%)に次いで「自分自身」(16%)、「話し相手・雑談」(14%)の順でした。学校での友人関係に悩んでいる姿が見られるのと同時に、親しく話せる相手がない、せめて「話し相手・雑談」として嬉しいことの報告やほんの些細なことでも話したいという、現代の孤独な子ども達の姿が見えてきました。

■ 年齢・性別により電話内容に差

男女別に見ると、男子小学生は「学校生活(友人関係)」や「話し相手・雑談」が多いのに対し、中学生・高校生になると「性」や「自分自身」という内容が多くなっています。一方女子では、ほぼ年齢に関係なく「学校生活(友人関係)」と「自分自身」に関して多くの電話が寄せられるなど、年齢が上がるほど、男女の電話内容に、はっきりと差が出ました。

弊社は社会貢献活動の一環として、2001年よりチャイルドラインの活動を支援しております。

<sup>1</sup> 東京都港区六本木4-17-4 みなとNPOハウス3F 代表 牟田悌三・清川輝基

<sup>2</sup> 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティビル36F 代表取締役社長 宮原伸生

<sup>3</sup> 「受け手」とはチャイルドライン支援センターで研修を受けたボランティアで、実際に電話で子供達と会話をする人をさす

<sup>4</sup> 無言電話をのぞく

■ NPO法人チャイルドライン支援センター代表理事で俳優の、牟田悌三氏の話

「今回の子どもの日チャイルドラインを実施して見えてきたことは、子ども達が本音でコミュニケーションが取れる相手を必要としている姿でした。本音で通じ合える仲間ができれば、今までと世界が変わって楽しい人生にできるのです。最近の青少年による事件も、誰かと話せば、誰か話を聞いてくれる人がいたら、起こらなかったかもしれません。」

■ 「第5回子どもの日チャイルドライン」を振り返って

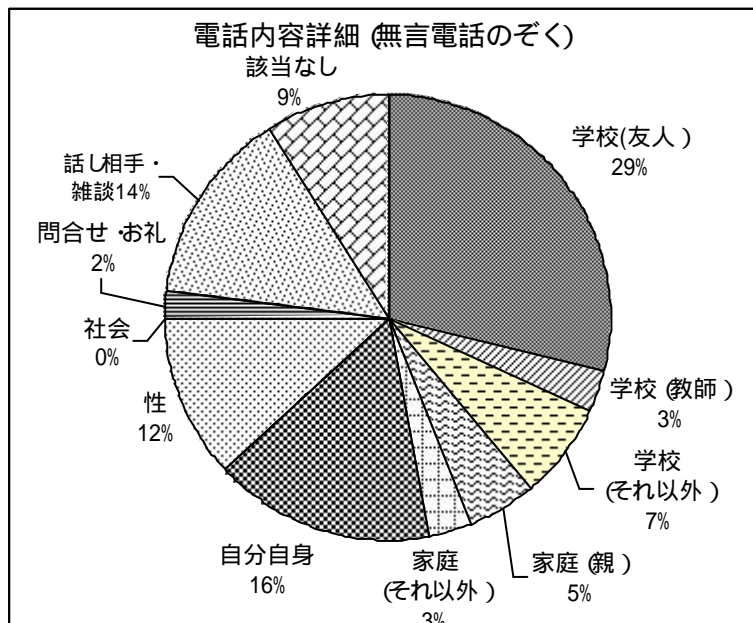
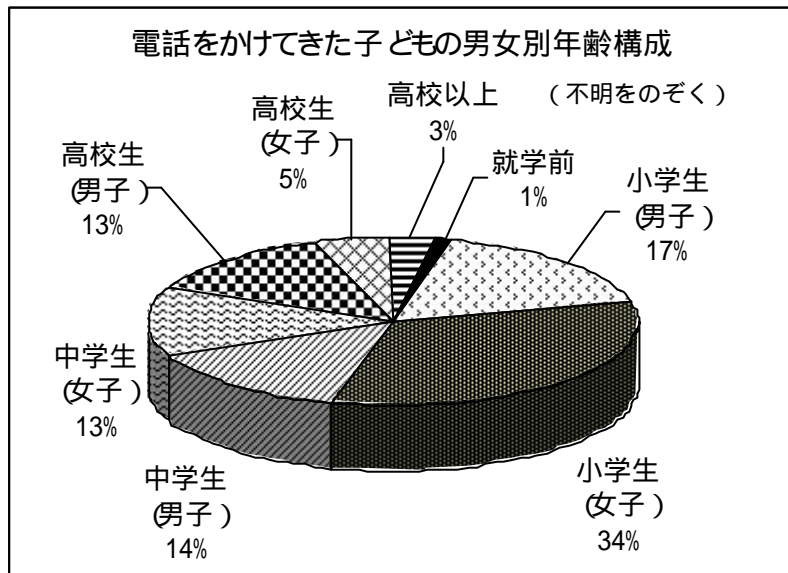
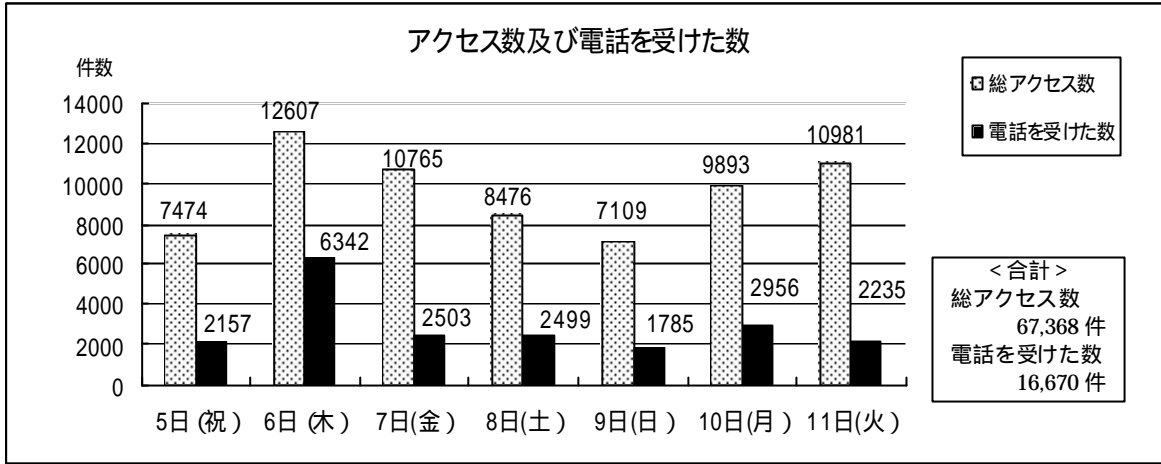
弊社は2001年よりチャイルドラインの活動に協賛しています。子どもによる事件が多発している中で、その事実にも最も衝撃を受けているのは、実は子ども達かもしれません。今回のキャンペーンを振り返り、改めて支援の必要性を認識いたしました。今後もチャイルドラインを支援することで、子ども達の心と体の健康に貢献していきたいと考えております。



電話を待つ受け手（5月5日、めぐろチャイルドライン）

# 参考資料 1

## 第5回「子どもの日チャイルドライン」全国実施結果



参考資料 2

